－ 第 21 号 －
2020 年 3 月発行

中国交流ネットワーク通信

＜ 目次 ＞

（1）お知らせ
■「赤れんが通信」の発行

（2）中国関連の動き
■黒竜江省青年交流団の来道（北海道国際交流・協力総合センター主催）
■新型コロナウィルス感染症拡大に際して行われた北海道と中国との助け合いについて
■その他にご来庁頂いた中国の皆様

（3）編集後記

＊＊

（1）お知らせ

■「赤れんが通信」の発行

北海道庁国際課には現在、中国、韓国、アメリカからの国際交流員が 1 名ずつ在籍しています。国際交流員は、地域の国際交流事業への参加などを通じ、国際交流のお手伝いをしています。国際交流員は 2 ヶ月に 1 回程度「赤れんが通信」を発行し、国際課のホームページで公開しています。

この通信では、交流員がそれぞれの視点で、北海道の観光や暮らしなどについてご紹介しています。中国語版では日本語の発行はありませんが、語学を勉強中の方々にも好評ですので、是非、ご覧ください。

＊3月号のトピック＊
- 【新型コロナ】
  北海道と中国の助け合いについて
- 国際交流員のオホーツク訪問

「赤れんが通信」は、次の URL からご覧いただくことができます。

（URL）http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tsk/akarenga.htm

（２）中国関連の動き

■ 黒竜江省青年交流団の来道（北海道国際交流・協力総合センター主催）

１２月１１日（水）から１３日（金）まで、北海道の友好提携地域である中国・黒竜江省から、ハルビン音楽学院の教師・生徒などをはじめとする黒竜江省青年交流団が来道しました。訪問団には、団長として黒竜江省外事弁公室呉永剛（ご・えいごう）北東アジア処長が同行しています。

今般の来道は、北海道国際交流・協力総合センター（HIECC）の日中青少年交流事業の一環で、平成３０年９月の胆振東部大地震の被災地の方々を元気づけたいという黒竜江省側の思いをきっかけに実現したものです。

１１日（水）、札幌市内において開催された「黒竜江省青年交流団歓迎夕食会」に出席した近藤国際局長は、歓迎挨拶で「日中青年交流演奏会を通じ、友好地域である黒竜江省の皆さまの真心が被災地に伝わり、多くの方々を元気づけられれば幸い」と述べました。

訪問団を代表して挨拶を述べた呉処長は、「北海道と黒竜江省の間では、カーリングやサッカー、音楽など、文化・スポーツ分野で大変有意義な友好交流が実施出来ており、今後ともぜひ継続して参りたい」としました。

翌１２日（木）、訪問団は札幌市内散策後に札幌大谷大学、安平町役場にて表敬訪問を行い、午後には早来町民センターで開催された「日中青年ふれあいコンサート」に出演し、日本、中国の有名な楽曲を披露しました。

参加した町民からは、「わざわざ中国から来てもらい、素晴らしい音楽を聞かせていただいて、大変勇気づけられた」などの声が聞かれています。

（札幌大谷大学　表敬訪問）

（早来町民センターにて記念撮影）

（ハルビン音楽学院の発表）

（札幌大谷大学の発表）

■ 新型コロナウィルス感染症拡大に際して行われた北海道と中国との助け合いについて

【北海道からの支援】

今年１月、北海道の姉妹友好提携地域である黒竜江省において、新型コロナウィルス感染症が蔓延し、防疫用の医療物資不足が顕在化しました。そこで、黒竜江省人民政府は世界各国の姉妹友好提携地域に対し、物資支援の要請を行いました。

要請を受け、道は提供可能な分として、備蓄している物資の中から医療用防護服（３万枚）を黒竜江省に送付することを決定し、２月 18 日に物資を発送しました（中国行航空便減少の関係で、同 26 日に黒竜江省に到着）。物資は、黒竜江省赤十字社を経由して省内の各医療機関に運ばれ、医療の最前線において使用されています。

中国への医療物資支援は北海道だけでなく、日本の数多くの自治体、友好団体、企業などが行い、このことに対し、微博（中国の SNS）上では、中国の人々の日本に対する感謝の思いが大いに発信され、日本との友好ムードが大変高まりました。

（梱包作業の様子）

（黒竜江省外事弁公室北東アジア処・呉処長がハルビン国際空港にて物資受取）

※北海道が支援物資に添付した文字：

① 【 海内存知己，天涯若比邻 】 ⇒「友情に距離は関係無い」

原義：世界の中で、理解し合える人さえいれば、天の果てでもご近所同士

② 【 疾风怒雨，倏转为朗月晴空 】 ⇒「止まない雨は無い」

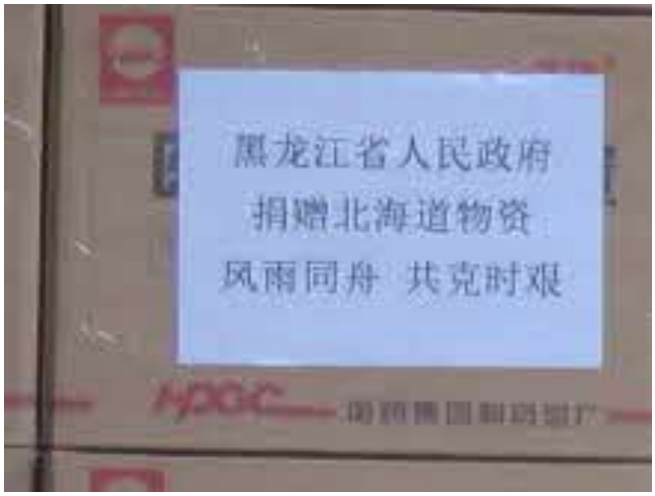
原義：暴風雨でも、突然晴れて明るい月が出ることがある

【中国からの支援】

新型コロナウィルス感染症の影響は、中国だけではなく、徐々に日本国内において顕在化し、２月 28 日（金）には鈴木知事が緊急事態宣言を行うなど、北海道においても事態は深刻化しました。また、それに伴って、日本国内、そして道内において、医療物資が品薄となり、メディアでは不安の声もささやかれるようになりました。

こうした日本における事態の深刻化を受け、中国の自治体、友好団体、企業などでは、つい１～２か月前に日本から受けた支援への「恩返し」の思いから、日本への医療物資支援の機運が高まりました。

※以下は、北海道に対して数多く送付いただいた医療物資（N95 マスク、医療用防護服、医療用手袋など）に記されていた、中国側の応援メッセージを抜粋したものです。



黒竜江省からの支援メッセージ：
风雨同舟 共克时艰
（力を合わせて共に難関を乗り越えよう）

遼寧省からの応援メッセージ：
鯨波萬里　一葦可航
出入相友　守望互助
（クジラのような波も一束の葦で渡ることが出来る。友として助け合おう。）

山東省からの応援メッセージ：
青山一道，风雨同舟，北海道加油！
（同じ山を見る近隣同士、共に困難を乗り越えよう、北海道、頑張れ）

在京中国大使館からの応援メッセージ：
相知在急難，獨好亦何益
（困った時こその友、一緒に乗り越えよう。）

大連市からの応援メッセージ
瀟瀟春雨下、相约一把伞
（春雨や身をすり寄せて一つ傘）

■ その他にご来庁頂いた中国の皆様

１月２１日（火）上海インターナショナルスクールの学生と浦本副知事

２月６日（木）映画監督 馮小剛（ひょう・しょうごう）氏の知事表敬

（３）編集後記

最後まで読んで頂きまして有難う御座いました。

新型コロナウィルス感染症の蔓延を受け、大変残念ながら友好交流事業を活発に行うことが難しくなっている現状ですが、北海道と中国とのかけがえのない友情、絆については、医療物資の寄贈を通じて再確認することが出来ました。

まだまだ感染症の終息が見通せない現状ではありますが、この困難を乗り越えられた後には、これまで以上に中国との友好を大切にし、多くの皆さまのご尽力の下で、相互交流を更に発展させられれば幸いです。

皆様におかれましては、北海道と中国、そして友好提携地域である黒竜江省をはじめとする各地域との友好交流が、今後とも多方面において拡大を続けられるよう、引き続きご理解をいただきますよう、お願い申し上げます。

※　中国関連のニュースや行事、そして北海道と他国・地域との国際交流に関する数多くの出来事については、メールマガジン「国際化通信」で情報発信をしています。（概ね月に１度の配信）
配信をご希望の方は下記のホームページより登録の手続きをお願いします。
また「中国ネットワーク通信」のバックナンバーは国際課ホームページで公開しています。

○メールマガジンの詳細についてはこちら
http://www1.hokkaido-jin.jp/mail/magazine/
○過去の「中国ネットワーク通信」についてはこちら
http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tsk/network.htm

掲載を希望する中国関連の情報がございましたら、是非お寄せください。

【発行】北海道総合政策部国際局国際課国際交流グループ
【国際課ホームページ URL】http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tsk/